

炎症性腸疾患(IBD)とは

免疫が関わっているとされる、原因不明の慢性腸疾患です。炎症細胞が腸粘膜に浸潤することが特徴です。ヒトの炎症性腸疾患(IBD)はクローン病と潰瘍性大腸炎を指しますが、人とは病変の特徴も異なりはっきりとした定義はありません。

《症状》

- 嘔吐
- 下痢、軟便
- 体重減少
- 元気低下
- 食欲不振

以上のような症状が2~3週間以上にわたって持続、又は間欠的に見られることがあります。



《診断》

他に消化器症状を起こす疾患を徹底的に除外した上で総合的に診断されます。

(内部寄生虫、腸管運動障害、膵炎、アジソン症、甲状腺機能亢進症、消化管の腫瘍、リンパ腫などなど…)

そのために血液検査、糞便検査、エコー検査、内視鏡検査などを行います。

内視鏡による腸の組織検査において、白血球が集まっている所見があることが特徴的です。

しかし除外や確定診断が難しい場合がほとんどで、多くは「IBDの疑い」として治療へ進みます。

IBDのパターン(浸潤している炎症細胞の種類や部位で分類)

↳リンパ球形質細胞性腸炎

↳好酸球性腸炎

↳肉芽腫性腸炎

↳組織球性潰瘍性大腸炎 等

《治療》

◆内科治療

確立した治療法はありませんが、免疫の関与が疑われるため、過剰な免疫を抑えるためにステロイドを使用します。基本的に生涯必要となるため、症状が安定したら副作用を最低限に抑えるために可能な限り減薬していきます。

ステロイドだけで症状が改善しない場合や、ステロイドの用量を減らす目的で、シクロスポリンなどの免疫抑制剤や、抗がん剤の一種であるクロラムブシルを使用することもあります。

腸内微生物が抗原となっている可能性がある場合は抗菌剤を併用します。

症状に合わせて整腸剤や制吐剤を使用することもあります。

◆食事療法

食事の変更によって症状が良化することがあり、その子に合ったフードを探します。

よく選択されるのは食物アレルギーに対応したごはんです。

- 加水分解タンパク食…タンパク質の分子を加水分解によって小さくしたもの。
- 新奇タンパク食…これまでに摂取したことが無い原材料を用いたもの。
- アミノ酸フード…加水分解タンパク食よりもさらに小さい単位まで分解したもの。

また、二次的にリンパ管拡張症を生じた場合には低脂肪食が推奨されます。

IBDは消化管リンパ腫に進行することがあるとされています。

低悪性度のリンパ腫はIBDとの鑑別が難しいです。

症状が良くならない、なんだかいつもと違うと感じた場合我慢せずにご相談ください。